



花びらまう夜

九つここのの春はる。松若まつわかさまは、お坊ぼくさんになる決心けっしんをされました。つらい生活せいかうをつづける人ひとびとを助たすけたいと思おもったのです。

「お坊ぼくさんになるための式しきは明日あす、おこないます」

慈円じえん和尚おしょうがそうおっしゃると松若まつわか

さまは、「いや、今いますべ」

そう言いって和歌わがを一首いっしゆよまれました。

「明日あすありと 思おもつ心のあた桜ういへん」

夜半よみに嵐あらしの 吹ふかぬものは

慈円じえん和尚おしょうはすくに松若まつわかさまの強い

決心けっしんのあらわれたと、気きがつかまりました。

「わかりました。今いまから式しきをおこない  
まします」

そう言いってすぐにお坊ぼくさんになるお式しきをされたのです。そして慈円じえん和尚おしょうから、「範宴はんえん」というなまえをいただきました。桜はなの花はなびらがうつくしくまう夜よのことでした。

親鸞しんらんさま「桜はなの花はながとつぜんの夜よの嵐あらしにちうてしまふように、人の命いのちも明日あしたはどうなっているかわからないからね。命いのちの大切たいせつさを知しって、今いまという時間じかんを大切たいせつにしなればいけなんだよ」

キク 「は〜」  
ハル 「わかった〜ッ」

